



PRESS RELEASE  
イケア・ジャパン株式会社

2016年11月16日

## 「Let's Play すべての子どもに遊ぶ自由を」 キャンペーン開催 11月20日（日）～12月24日（土）



子どもの遊ぶ権利と健やかに成長する権利  
An IKEA Good Cause campaign



遊ぶことは、子どもたちにとって基本的な権利です。そこで、イケアとIKEA Foundationは、子どもの権利を守るために活動する6つのパートナー機関と協働し、「遊び」が中心テーマである、今年から始まるイケアの新たな支援活動キャンペーン「Let's Play すべての子どもに遊ぶ自由を」を11月20日（日）子どもの権利の日からスタートします。

このキャンペーンは、子どもの発達と学び、平等な機会、スポーツ、そして遊びを支援するものです。11月20日（日）から12月24日（土）までの期間、お客さまがイケアでおもちゃを1つまたは絵本を1冊お買い上げいただくごとに、1ユーロがIKEA Foundationよりパートナー機関に寄付され、世界で最も恵まれない地域に暮らす子どもたちの遊ぶ権利や能力を伸ばす権利の向上に役立てられます。パートナーはHandicap International Federation（ハンディキャップ・インターナショナル）、Room to Read（ルーム・トゥ・リード）、Save the Children（セーブ・ザ・チルドレン）、Special Olympics（スペシャルオリンピックス）、UNICEF（国連児童基金ユニセフ）およびWar Child（ウォー・チャイルド）の6機関です。

キャンペーンを通して集まった寄付金は、障がいを持つ子どもたち、シリア紛争下の子どもたち、危険な移住生活や貧困状態にある子どもたちを支援するプログラムに充てられます。

「安全に遊べる場のない子どもたちが世界には大勢います。戦争や災害で住んでいた場所を追われ、危険な移動を行っている子どもたちは以前より多くなっています。貧困や偏見を理由に遊ぶ機会を失う子どもたちも増えています。中でも、紛争下の子どもたちは最も厳しい暮らしを強いられています。私たちには、これらの子どもたちの権利を支え、その認識を高める責任があります」 (Per Heggenes、IKEA Foundation CEO)

「遊びはとても大切です。子どもたちだけでなく、大人にとっても！ 遊びは創造力を開花させ、学習や発達を促します。『Let's Play すべての子どもに遊ぶ自由を』キャンペーンは、世界中の大勢の子どもたちの暮らしや人生を変える可能性があります」 (ヘレン・フォン・ライス、イケア・ジャパン社長)

「Let's Play すべての子どもに遊ぶ自由を」は、これまでのイケアの支援活動キャンペーン「ソフトイデ教育の機会を」、「難民キャンプに明かりを届けよう」の成功を受け(2003年からの寄付金累計額：118.8百万ユーロ、約138億円)、これに続く支援活動キャンペーンとして行われます。今回は、より多くのキャンペーン対象商品を設け、より多くのパートナー機関との連携を行い、これまでで最大規模の支援活動キャンペーンを予定しています。

#### **「Let's Play すべての子どもに遊ぶ自由を」キャンペーン概要：**

- 応募期間：2016年11月20日(日)～12月24日(土)
- 実施概要：キャンペーン期間中にイケアで子どもの遊び用品(本、絵本、おもちゃ)を1点お買い上げいただくごとに、IKEA Foundationから1ユーロが寄付され、世界各地の最貧地域に暮らす子どもたちが健やかに育ち、学び、公平な参加機会を得て、スポーツや遊びができるよう支援するプロジェクトに役立てられます。
- URL : [ikea.jp/letsplay](http://ikea.jp/letsplay)

#### **11月16日(水)「Let's Play すべての子どもに遊ぶ自由を」プレスイベント開催**

日本でのキャンペーンの開始と子どもの権利への理解を高めるため、イケア・ジャパンは、11月16日(水)にプレスイベントを開催しました。イベントには、パートナー機関である日本ユニセフ協会、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、スペシャルオリンピックス日本、ルーム・トゥ・リード・ジャパンの代表者を招き、子どもたちの権利と遊びの重要性についてのパネルディスカッションを行いました。

当日は、フリーアナウンサーの根本美緒さんが司会を務め、スペシャルオリンピックス日本からはそのサポーターである森理世さんが参加されました。

## **IKEA Foundation のパートナーからのメッセージ**

### **■ Handicap International Federation (ハンディキャップ・インターナショナル) –パキスタン、タイ、バングラデシュ**

Handicap International は、障がいのある子どもたちや家を追われて危険にさらされている子どもたちに、幼児期の発達のための機会を提供していきます。

Cheryl Shin-Hua Yeam (Handicap International、地域テクニカルコーディネーター)

「難民キャンプに暮らす子どもたちは、戦争や暴力から逃げてきた子ども、貧困や病気に直面している子どもなど、複雑な事情を抱えています。遊びは彼らにとってこれらの問題に対処し、子どもらしくいられるために大事なツールです。だからこそ、私たちは、弱い立場にある子どもたちが安心・安全と感じられ、遊びを通して能力を伸ばせるような、誰でも利用できる空間を各コミュニティにつくりたいと思っています」

### **■ Room to Read (ルーム・トゥ・リード) –バングラデシュ、インドネシア**

Room to Read は、教師向けの研修や学習教材のほか、読み書き能力と読書習慣の育成を取り入れた質の高い教育を取り入れ、子どもたちの人生を変えていきます。

Erin Ganju (Room to Read、CEO 兼共同創設者)

Room to Read は、バングラデシュとインドネシアで多くの子どもたちに、読書の喜びと学ぶことの楽しさを教えます。私たちの革新的で、データに基づいた効率的な識字教育プログラムは、図書室の設置、教師への教育、現地の作家やイラストレータの発掘と現地語の児童書の出版などを通して、何百ものコミュニティで大きな変化を起こしていきます。」

### **■ Save the Children (セーブ・ザ・チルドレン) –バングラデシュ、エチオピア**

Save the Children は、子どもを危険にさらす移住を防ぐべく、移住の途上にある子どもたちの安全と教育、遊びを促進する活動を行っています。

Elisabeth Dahlin (Save the Children スウェーデン事務局長兼 IKEA Foundation とのパートナーシップ担当) 「Save the Children は、定住できない子どもたちに、よりよい将来のチャンスを与えています。IKEA Foundation は、世界中のイケアのコワーカーおよびお客さまからの支援で、私たちが行っている、子どもたちの守られる権利、教育の権利、そして遊ぶ権利を向上する活動をサポートしてくれています。定住できず各地を移動する子どもたちはとても弱い立場にあります。私たちのプログラムはそんな暮らしに持続的な改善をもたらすことを目的としています」

### **■ Special Olympics (スペシャルオリンピックス) –バングラデシュ、インド、パキスタン、タイ**

Special Olympics は、スポーツを通じて知的障がいのある子どもたちの社会的インクルージョンと心身の発達を促していきます。

Mary Davis (Special Olympics、CEO)

「知的障がいのある子どもたちの大多数が、価値あるサービスや教育の機会に恵まれず、それが理由で、本人やその家族が貧困ループや社会的孤立に追いやられ、最終的には人としての発達を阻んでしまうことを知ったときは、ショックと失望感でいっぱいでした。スペシャルオリンピックス・ヤングアスリートプログラムは、知的障がいのある子どもたちの身体、認知、社会性の発達と社会へのインクルージョンを目的としたスポーツと遊びのプログラムです。子どもたちに、安全な環境の中でゲームや歌などを取り入れた遊びをすることで学ぶ機会を提供しています。パートナーである IKEA Foundation のおかげで、私たちはヤングアスリートプログラムを発展させ、より多くの子どもたちに参加してもらい、より多くの家族に影響を与え、知的障がい児に対する固定観念を打ち破ることができます」

#### ■ UNICEF (国連児童基金ユニセフ) —中国、インド、インドネシア、ケニア

UNICEF は、最も貧しい地域に暮らす子どもたちの幼児期の発達を促すため、0 歳から 8 歳の子どもたちを対象に、安全な空間、教育、健康面でのサポートを提供します。

Rebello Britto (UNICEF、子どもの早期ケアと教育 (ECD) プログラムリーダー)

「小さな子どもたちの脳や身体は、守られた環境で、しっかりと栄養を与えられ、いろんな刺激を体験することで、十分に発達し効果的に学習できるようになります。そしてそれが、大人になったときに、収入や社会性といった面で役に立ちます。『Let's Play すべての子どもに遊ぶ自由を』キャンペーンにより、私たちは、中国、インド、インドネシアおよびケニアにおいて、より多くの子どもたちに栄養サポートのプログラムを届けることができます。そして、小さな子どもたちが健康に大きくなるために不可欠な環境を整備し、彼らの成長をサポートできます」

#### ■ War Child (ウォー・チャイルド) —ヨルダン、レバノン

War Child は、シリア紛争の影響でヨルダンとレバノンに暮らすようになった子どもたちに、安心して遊び、学び、能力を伸ばせる安全な環境を提供していきます。

Tjipke Bergsma (War Child オランダ代表) 「戦争は子どもの遊びではありません。どの子にも安全な空間で仲間と一緒に遊ぶ権利があります。IKEA Foundation のおかげで、ヨルダンとレバノンに暮らす 18,000 人のシリア人と現地の子どもたちが、何年もの暴力行為が終わったあと、遊びや子どもらしい暮らしを取り戻し、将来を再建することができます」

#### IKEA Foundation について

IKEA Foundation (Stichting IKEA Foundation) は、イケアグループを所有する INGKA Foundation の慈善事業部門です。根本的かつ持続的な変化を促す包括的な長期的なプログラムに資金援助を行うことで、世界の最貧地域に暮らす子どもと青少年の機会向上を図っています。IKEA Foundation は、力強く戦略的なパートナーと連携し、子どもの生活の基本となる 4 つの領域 (家と呼べる場所、乳幼児期の健康づくり、質の高い教育、持続可能な家計) において大きな成果を上げるべく革新的アプローチを用いて取り組んでいます。また、支援対象コミュニティが気候変動の影響に立ち向かうための援助も行っています。詳しくは、<http://www.ikeafoundation.org> および <http://www.facebook.com/IKEAfoundation> をご覧ください。